＜ひな形は査読や校正に適切な書式設定をしています．著者設定のワードファイルからコピーペーストすると，ひな形の設定が消えることがあるため，最初からひな形にタイピングされることをお勧めします．特に行番号やページ番号が消えた原稿は受け付けません．原稿提出の際，印刷に不必要な以降に記載の＜文字＞は確認後に消去してください＞

表題：

Title：

簡略表題（日本語）：＜20字以内＞

著者名：

Authors：

所属：

所属英文：

連絡著者：

e-mail：

Phone: ＜メイルで連絡が取れない場合に連絡著者に直接連絡が取れるもの＞

特集・連載名（日本語）：

特集・連載名（英語）：

＜特集・連載名（日本語および英語）は、特集・連載の記事で記入してください＞

要旨：＜600字以内，コメント原稿**以外**はキーワードともに必須＞

キーワード：＜表題に含まれない内容を適切に表す語句5つ以内＞

Abstract: ＜300語以内，原著・総説原稿はkeywordsともに必須＞

Keywords: ＜表題に含まれない内容を適切に表す語句5つ以内＞

大見出し（番号を使わない）

＜文章末尾の「？」は使用しない形式で統一。生物名は、ブナ*Fagus crenata* Blumeのように、基本的に和名（カタカナ）を用い、本文の初出で学名（イタリック表記）と命名者名を示してください。なお種のリストなどの表中では、および動物では本文中でも、命名者名を省略することができます。単位はMKS単位系を用いてください。＞

**中見出し（番号を使わない）**

＜表は、このように引用します（表1）。図は、このように引用します（図1）。複数の表または図の引用はこのようにします（表2, 図2）。図表の掲載希望位置を右端にテキストボクスで表示します＞

図2

図1

表1

小見出し（番号を使わない）

＜引用のスタイルは、MendeleyやPapers、Zeteroなどの文献管理アプリケーションが参照するCitation Style Language（CSL）のCSL style repositoryに登録されているhttps://github.com/citation-style-language/styles/blob/master/dependent/ecological-research.cslです。この引用スタイル（Springer版のEcological Research）を文献管理アプリケーションに設定すれば、引用と引用文献がほぼフォーマットできます。＞

表2

＜文献の引用の例を示します（西村2008; Sugiyama and Hayashi 2001; 田中ほか 印刷中; Yamada et al. 2005a,b, 2006)。著者名を出す場合は、岡崎･板本（2009）のようにします。＞

＜ウェブサイトは、適した文献を引用できない場合に限り、引用してください。発行年が不明の場合や逐次更新されている場合は、「引用文献」に含めず、本文中にURLと最終確認年月日を記述してください（「知床世界遺産候補地管理計画（環境省東北海道事務所）」、http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/higashihokkaido/topics/8/、2005年11月2日確認）。資料名を出す場合は、YList（米倉・梶田「BG Plants 和名−学名インデックス」http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist\_main.html 最終確認日2014年12月24日）のようにします。発行者と発行年が判明しており、PDFファイルのように原則として逐次更新されていない場合は、文献の引用と同様の形式で引用してください（生物多様性JAPAN 2013）。＞

＜国会議事録などの引用は、「引用文献」に含めず、本文中に発言者、本会議または委員会名と開催年月日、必要ならば議事案件について記します（○○議員、衆議院環境委員会2004年2月23日、環境保全の基本的施策に関する件）。新聞記事についても、「引用文献」に含めず、本文中に確認した記事の記者名か匿名、新聞社名および支社名、朝夕刊の別、最終版でない場合には版数、記事名、日付について記します（匿名、読売新聞北海道支社朝刊「ボランティアがハチ退治」2004年5月14日）。＞

謝　辞

＜謝辞の文章＞

引用文献

＜雑誌からの引用＞

Green JL, Plotkin J B (2007) A statistical theory for sampling species abundances. Ecology Letters, 10:1037-1045

岡崎 純子, 板本 瑶子 (2009) 大阪教育大学柏原キャンパスの植物相とその変化. 大阪教育大学紀要　III, 58:15-35

Yamada T, Ngakan OP, Suzuki E (2005a) Differences in growth trajectory and strategy of two sympatric congeneric species in an Indonesian flood-plain forest. American Journal of Botany, 92:45-52

Yamada T, Suzuki E, Yamakura T, Tan S (2005b) Tap-root depth of tropical seedlings in relation to species-specific edaphic preferences. Journal of Tropical Ecology, 21:155-160

＜単行本の引用＞

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎 (2008) Rによるやさしい統計学. オーム社, 東京

デ クルーン H, フィッサー EJW (編) (2008) 根の生態学 (森田 茂紀, 田島 亮介, 森田 茂紀, 田島 亮介 訳). シュプリンガー・ジャパン, 東京

Roger C, Calvin D, Richard L (2008) Dispersal in Plants. Oxford University Press, Oxford

＜単行本の一部の引用＞

鷲谷 いづみ, 村上 興正 (2002) 日本における外来種問題.（日本生態学会 編）外来種ハンドブック, 6-8. 地人書館, 東京

Maun MA (2004) Burial of plants as selective force in sand dunes.　In: Martinez ML, Psuty NP (ed), Coastal Dunes Ecology and Conservation,119-135. Springer, Berlin

＜印刷中の文献の引用＞

大串隆之 (印刷中) 生物多様性の総合理論. 日本生態学会誌

大串隆之 (2005) 生物多様性の総合理論. 日本生態学会誌 (印刷中)

＜発行者と発行年が判明しており、PDFファイルのように原則として逐次更新されていないウェブサイトの引用＞

生物多様性JAPAN (2013) 「IUCN 減災（災害リスク軽減）のための環境の手引き」 http://www.bdnj.org/pdf/140509.pdf, 2014年12月25日確認

Society for Ecological Restoration (2004) “SER International Primer on Ecological Restoration, version 2” http://www.ser.org/resources/resources-detail-view/ser-international-primer-on-ecological-restoration, 2015年2月15日確認

図の説明

図1

図2

図１　著者名：

図２　著者名：

（カラー印刷希望）→希望しない場合（pdfのみカラー）は削除

表１．表の説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 調査地 | 変数1 | 変数2 | 変数3 |
| 調査地１ |  |  |  |
| 調査地２ |  |  |  |